

高美小学校内 TM だよい

R7.11.28.NO.24

校内授業研究会がありました。1年生、3年生ともに「はてなをもとめて、自ら学びに向かう力の育成」に向けて、実践を行いました。

★1年生 国語

「てがみでしらせよう」

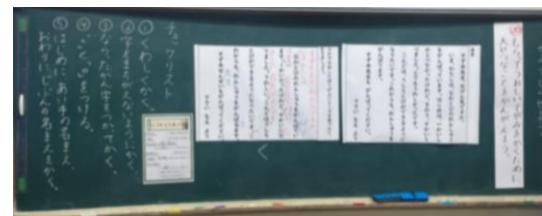
手紙を書くときの決まりと、書くときに気を付けることについて考えました。ゴールが、「園の先生宛てに手紙を書く」と示されており、子どもたちにとって見通しをもって活動に取り組むことができるような単元計画表を作成していました。先にどんなことに気をつけなければならないかを指導するのではなく、二種類の手紙を見比べながら、手紙を書くときに気を付けることに気づけるよう、工夫して指導されました。授業の後半では、子どもたちが気づいたことを黒板にまとめ、手紙を書くときのチェックリストを作成しました。教え込まれたものではなく、子どもたちの発言をもとにつけられたチェックリストなので、子どもたちにとって、自分の体験を通して得た知識として、定着しやすかったのではと感じました。



★3年生 国語

「すがたをかえる大豆」

単元の導入でした。「姿を変える食べ物図鑑を、お隣の高美南小学校の3年生に見てもらう」と、相手を明確にし、単元のゴールを子どもたちに伝えておられました。ちょうど先日、高美南小学校と交流をしたところだったので、子どもたちにとっても身近であり、意欲を高めるのにぴったりだと感じました。本時では、まず学習計画を子どもたちと一緒に立てました。その後、大豆から姿を変えた食品を、自分ならどの順番で相手に紹介するか考えました。教科書を読み込む前に、本時で行ったような活動を取り入れることで、筆者と自分の考えを比べながら読むことができ、課題を自分事としてとらえることにつながると感じました。本時の最後には、実際に教科書を開き、「すがたをかえる大豆」に出てくる順番を確かめることで、次時への意欲を高めておられました。



★研究協議会★

授業後、研究協議会を行いました。それぞれの授業について出た意見をまとめました。

1年生…相手意識、目的意識をもたせることができていた。自ら学びに向かう力の育成にながっていた。めあての文言が具体的になればなるほど、何をすればよいのかがはっきりする。本時で身につけるべき知識を、教わるのではなく自分たちで発見することで獲得できるという工夫が良かった。

3年生…相手意識、目的意識をもたせることができていた。自ら学びに向かう力の育成にながっていた。単元計画をたてるときに、「ゴールを達成するために何が必要か」を考えるとたてやすい。ゴールは明確であるほうが、見通しをもって、また、安心して活動することができる。

★八尾市教育センター 吉原指導主事より本時の振り返り・指導助言★

1年生…学習規律がしっかりと整っている。子どもたちにとって、安心安全で居心地の良い学級であることがよくわかった。

板書に使われているものと同じものが、ワークシートとして子どもたちの手元にあった。視覚的な支援が整えられていた。

単元の計画が子どもたちにとってわかりやすい。学びに向かう力につながっている。一時間の計画も示すことができるとよりよい。

3年生…板書が丁寧なので、途中から参加したとしても何をやっているところかわかる。すべての子どもたちが参加しやすい。

挙手している児童が多く、子どもたちの学習に対する意欲の高さが感じられた。日々の取り組みが生かされている。

めあてに対する振り返りは、次時につながる。

本時の振り返りのほかにも、教員間で支え合い、協働する力（同僚性）や、それぞれのクラスでの取り組みの共有方法についてお話しいただきました。特に、同僚性については高美小学校の教職員集団に対し「提案型の授業に対し、みんなで研究していくこうという前向きな反応が多い」というお話をいただきました。より一丸となって研究を進めていきたいと思います。

★まとめ★

- ・ゴールを明確にする（相手は誰か、目的は何か）を明らかにすることで、見通しをもって、安心して学習を進めることができる。また、単元の計画をたてやすくなる。
- ・教わるのではなく、自分たちが活動を通して発見したものをまとめることで、知識としての定着につながる。

多くの学びがある授業研究会となりました。子どもたちの学びに向かう姿勢を育てるために、よりよい授業づくりができるようこれからも取り組んでいきましょう。